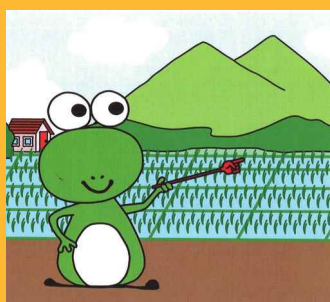


第四回 茨城県美しい水土里づくり 優良活動表彰事例集

〔農地・水・環境保全向上対策部門〕

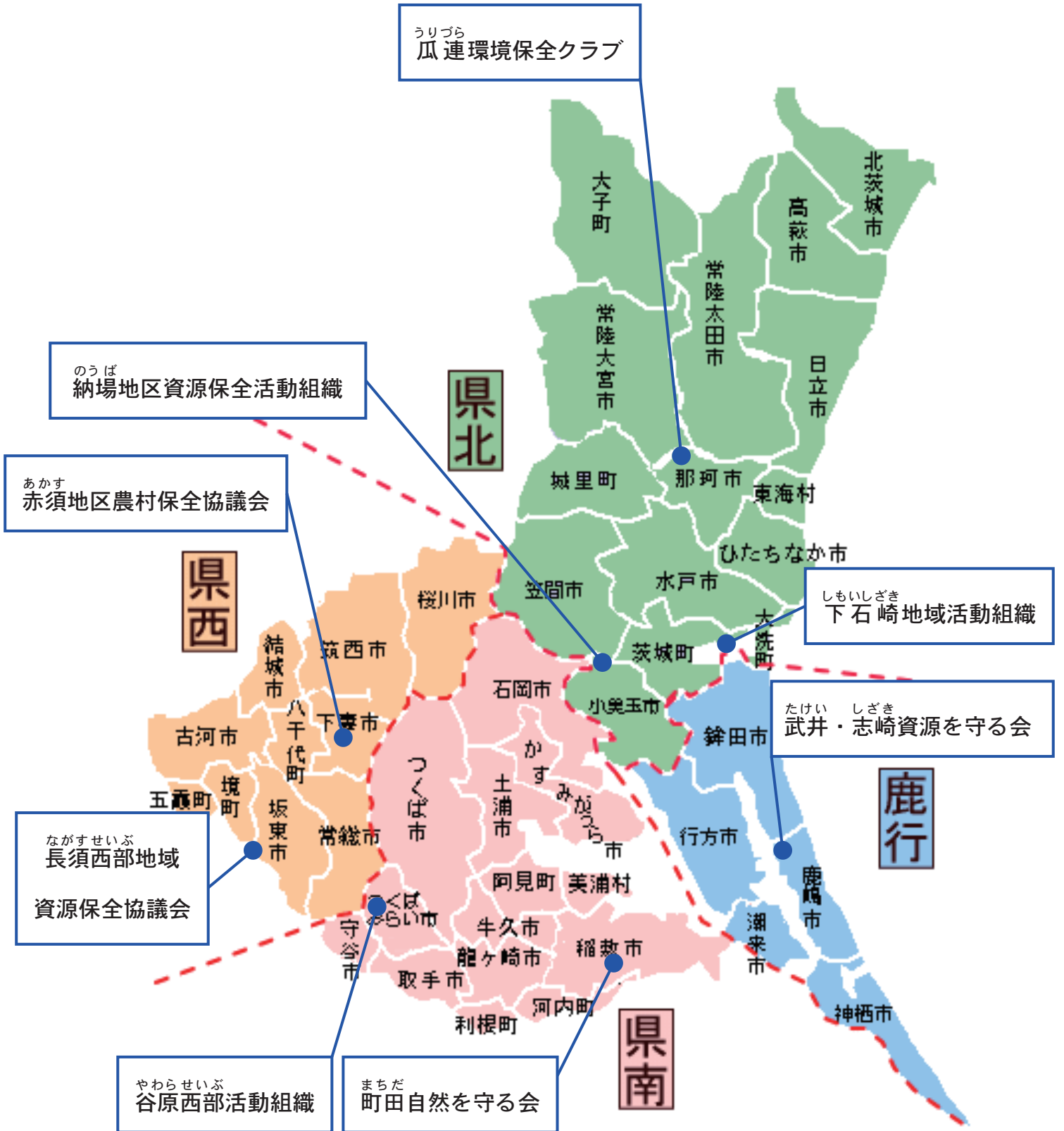


平成 24 年 1 月

茨 城 県

みんなで進めよう
茨城農業改革

優良事例位置図



目 次

【最優秀賞】（茨城県知事賞）

- 東日本大震災後の補修に地域が一体となり，共同活動に取り組む

しもいしざき
下石崎地域活動組織（茨城町）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

【特別賞】（茨城県土地改良事業団体連合会長賞）

- 組織の中の3つの部（環境部・土木部・美化部）によるそれぞれの共同活動と組織全体での共同活動の融合

うりづら
瓜連環境保全クラブ（那珂市）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

【優秀賞】（茨城県農林水産部長賞）

- 5つの集落でのまとまりによる共同活動を実施し，広がる集落間のコミュニケーション

のうば
納場地区資源保全活動組織（小美玉市）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

- 地域全体で遊休農地解消や農業施設の維持を行い，地域のコミュニケーションを図りながら農村環境向上に取り組む

たけい しざき
武井・志崎資源を守る会（鹿嶋市）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

- 9つの集落が連携を取りながら，豊かな農村環境保全に取り組む

やわらせいぶ
谷原西部活動組織（つくばみらい市）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

- 地域が一体となって農村の資源を守り，豊かな農村環境づくりに取り組む

まちだ
町田自然を守る会（稲敷市）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11

- 地域が一体となって農村の資源を守るとともに，次世代につながるふる里づくりに取り組む

あかす
赤須地区農村保全協議会（下妻市）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13

- 地域が一丸となって生態系保全や環境美化活動に取り組み，農村環境向上と世代間交流を促進

ながすせいぶ
長須西部地域資源保全協議会（坂東市）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15

東日本大震災後の補修に地域が一体となり、 共同活動に取り組む

しもいしざき
下石崎地域活動組織（茨城町）

1 地域の資源

農地	開水路	パイプライン	ため池	農道
147.3ha	25.4km	35.4km	5ヶ所	25.2km

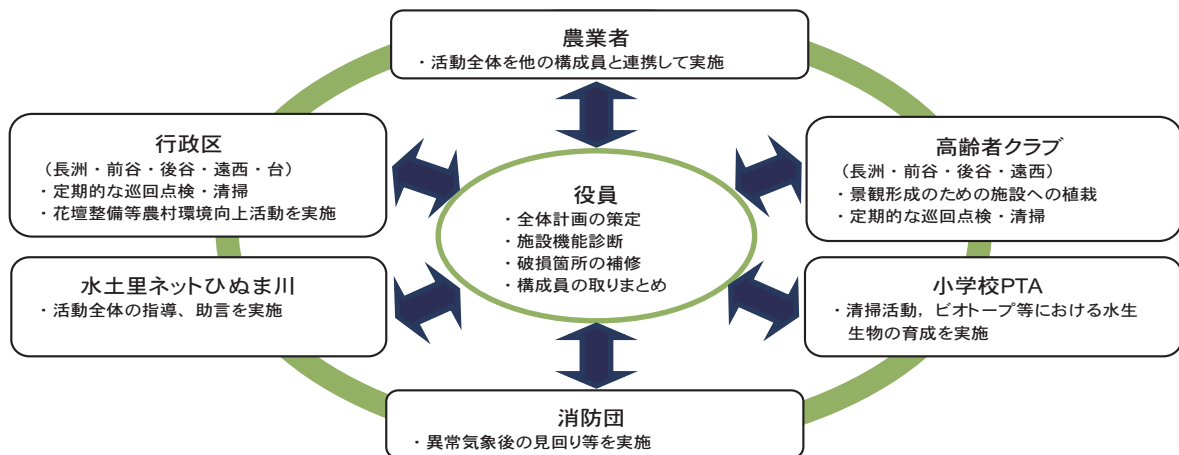


花壇の植栽



ビオトープ設置

2 活動組織の構成員



3 地域の様子と取り組みへのきっかけ

- ・当地域は茨城町東部に位置し、名勝潤沼に接している干拓地であり、広大な水田は潤沼川の堤防脇まで広がっている。
- ・現在の関係土地改良区はひぬま川土地改良区であるが、土地改良区合併前は下石崎土地改良区であり、旧下石崎土地改良区の受益地が基盤となり、現在の「下石崎地域活動組織」となっている。
- ・活動組織は5つの地区で構成されており、茨城町内の活動組織としては一番面積が大きい活動組織である。この5つの地区はそれぞれ自治会が存在し、各地区で独自に草刈り等の清掃活動や景観形成向上の活動を実施している。
- ・取り組みのきっかけは、農業従事者が高齢化を迎え、当地域の将来あるべき姿として、地域がひとつになり、農業施設の保安全管理や農村環境の向上という本対策の趣旨に賛同したためである。

4 主な活動内容（平成 22 年度）

準備点検	計画・啓発	実践活動
<ul style="list-style-type: none"> 施設状況の点検，機能診断 	<ul style="list-style-type: none"> 共同作業計画 年度活動計画の策定（4月） 	<ul style="list-style-type: none"> 施設周りの草刈り（5月～10月）① 農村環境向上活動（5月～12月）②,③ 東日本大震災後のパイプライン等の応急措置を実施（3月）④



①水路の草刈り



②ビオトープにてメダカの放流



③施設の定期的な巡回・清掃



④震災で壊れたパイプラインの補修作業

5 取り組みの効果及び今後の展望

- 5つの地区の農家と非農家，自治会や高齢者クラブ等各団体間の交流が清掃活動や花壇植栽を通して活発になり，農村環境に対する意識の向上と情報交換の場が生まれ地域内相互の交流が深まった。
- 東日本大震災後のパイプラインの復旧作業に交付金を使用し早期対応が可能となり，作付けに間に合わせた。
- 遊休農地に整備した「ビオトープ」や，各施設周りに造られた「花壇」の維持管理を今後も継続して実施していく。
- 今後は，活動の後継者を育成し，町や土地改良区など関係機関との連携を取りながら，更なる活動の向上を目指していく。

組織の中の3つの部（環境部・土木部・美化部）による それぞれの共同活動と組織全体での共同活動の融合

うりづら
瓜連環境保全クラブ（那珂市）

1 地域の資源

農地	開水路	パイプライン	ため池	農道
15.3 ha	4.0 km	—	—	3.2 km

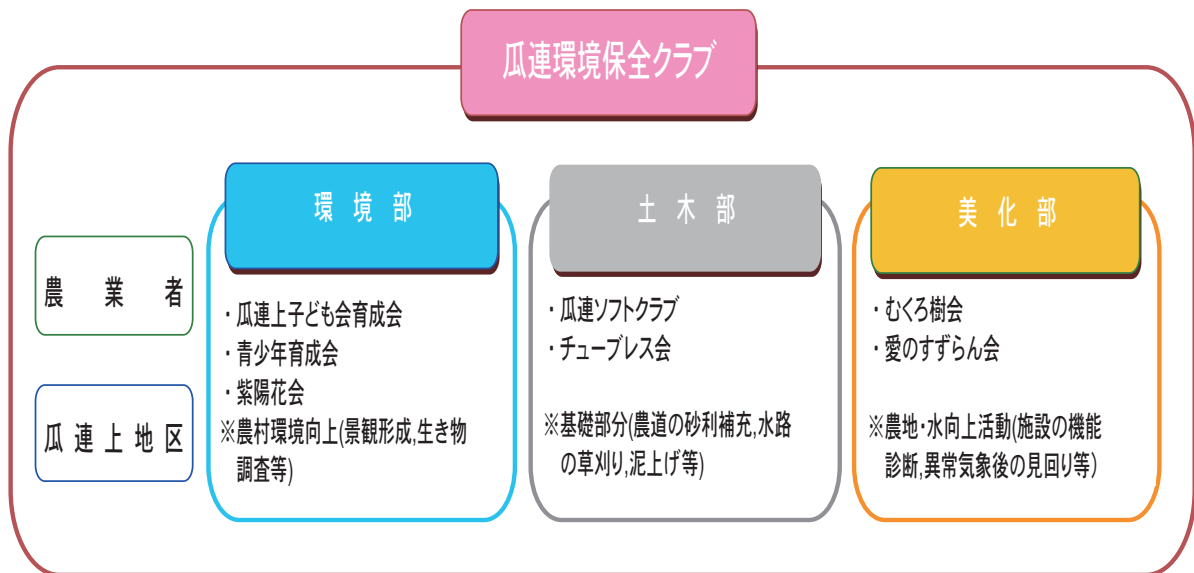


市の花（ひまわり）植栽



稲刈り体験（子ども会）

2 活動組織の構成員



3 地域の様子と取り組みへのきっかけ

- ・当地区は、那珂市北部の久慈川沿いに展開する水田地帯で、昭和36年に区画整理事業が完了した地区である。これまで地区内の施設を適切に管理してきた農業者の高齢化や後継者不足等により、十分な管理が出来なくなってきている現状を受けて、保全クラブの立ち上げを行い、資源保全と周辺の環境向上に取り組むことになった。
- ・当クラブにおいては、多くの非農業団体が参加し、様々な地域交流活動や施設保全の共同活動を展開しているところである。

4 主な活動内容（平成 22 年度）

準備点検	計画・啓発	実践活動
<ul style="list-style-type: none"> ・施設の点検 ④ ・施設の機能診断 ・通水試験実施 (4月) 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動計画策定会議 (4月～2月) ・地域イベントにおいて広報活動 ② ・子ども会の稲作体験 ③ 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設周りの草刈り (5月～2月) ① ・水路の泥上げ (12月, 2月) ・農村環境向上活動



①施設周りの草刈り



②イベントでの広報活動



⑤保全クラブ主催
用水路にて遊ぶ
子ども達



③稲作体験の実施（学校教育との連携）



④施設の点検

5 取り組みの効果及び今後の展望

- ・ 3つの部がそれぞれの役割で共同活動を行い、活動計画策定や地域のイベントにおいては組織が連携、協力し全体が一体となって事業に積極的に取り組んでいる。
- ・ この対策を導入後、地域内での話し合いの場が増え、活発な議論も出来るようになった。
- ・ 保全クラブ主催の「田植え祭」、「収穫祭」、「餅つき大会」等のイベントに子ども会、PTAが積極的に参加してくれるようになった。
- ・ 草刈り等は今まで年1回程度の実施であったが、対策導入後は共同活動の中で年7～9回に増え、地域の資源を保全する意識が高まった。
- ・ 地域のイベントでの積極的な広報活動により、施設周りの草刈りや水路の泥上げなどの共同活動に非農家からの参加者が増えている。
- ・ 今後、交付金の有無にかかわらず、この活動を継続していくことを保全クラブとして取り決めを行っている。

5つの集落でのまとまりによる共同活動を実施し、広がる 集落間のコミュニケーション

のうば
納場地区資源保全活動組織 (小美玉市)

1 地域の資源

農地	開水路	パイプライン	ため池	農道
89.0 ha	9.3 km	17.8km	1ヶ所	38.8 km

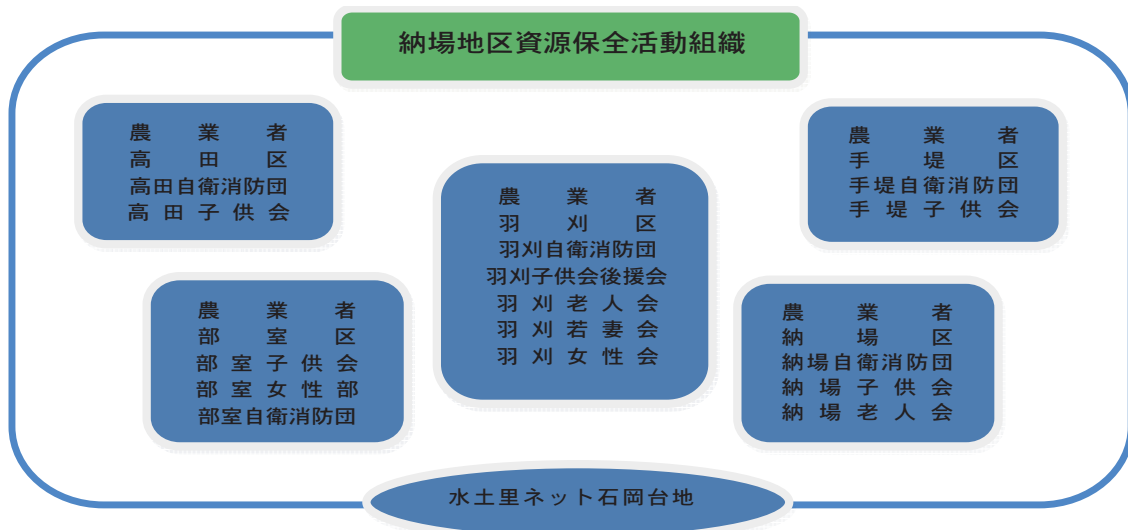


花壇の植栽



地域住民による清掃

2 活動組織の構成員



3 地域の様子と取り組みへのきっかけ

- ・当地区は小美玉市（旧美野里町）の北西部に位置し、石岡市及び笠間市に隣接している。関係する土地改良区は石岡台地土地改良区であり、水源は地区内を流れる巴川からの揚水でまかなっている。
- ・平成 19 年度に農地・水・環境保全向上対策が制定されるとすぐに当対策を取り入れ、地域住民の交流を図るとともに、農業用施設の保安全管理活動に力を入れるようになってきた。
- ・当地区は5つの集落から構成されており、共同活動はそれぞれの集落単位で実施している。また、農地水向上活動や農村環境向上活動については非農業者の団体が積極的に参加して実施している。

4 主な活動内容（平成 22 年度）

準備点検	計画・啓発	実践活動
・施設の点検，機能診断 （4～6月，10～11月）	・共同作業計画 ・年度活動計画の策定 （4月）	・施設周りの草刈り（5～1月）① ・水路の泥上げ（11月）④ ・農村環境向上活動（4～8月，11～1月） ② ③



①遊休農地の草刈り



②地区内の巡回清掃



③ため池脇への植栽風景



④水路の泥上げ

5 取り組みの効果及び今後の展望

- ・「羽刈」「部室」「高田」「手堤」「納場」の5つの集落間で計画策定会議や実践活動を通じて情報交換の場が生まれ，活発な交流が実施されるようになった。
- ・5つの集落が休耕地や施設の空きスペースを活用して景観形成のための植栽を実施し，また，自治会や子供会，老人会が中心となって清掃活動を行うことにより，いっそう和みを帯びた農村風景へと変貌している。
- ・本対策を通じて築かれた小学生から高齢者までの世代間交流，地域内交流を継続させていけるように組織を継続していく。

地域全体で遊休農地解消や農業施設の維持を行い、 地域のコミュニケーションを図りながら農村環境向上に取り組む

たけい しざき
武井・志崎資源を守る会（鹿嶋市）

1 地域の資源

農地	開水路	パイプライン	ため池	農道
105.0 ha	9.0 km	5.0km	—	14.0km

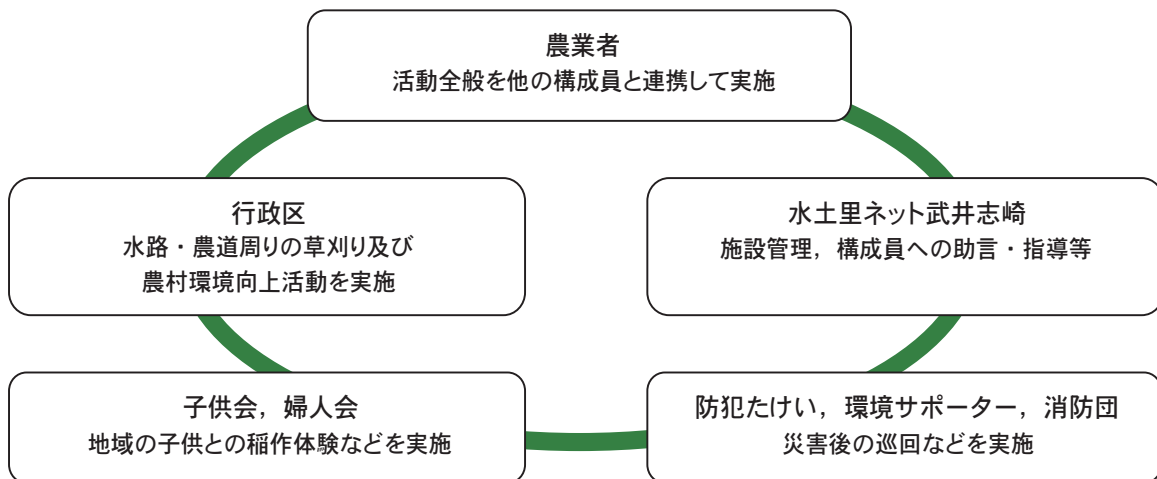


子供会と連携した稲作体験



水路の生き物調査

2 活動組織の構成員



3 地域の様子と取り組みへのきっかけ

- ・当地区は、鹿嶋市の北西部に位置しており、北は銚田市に、西側は北浦に隣接している地域で、県営土地改良総合整備事業武井志崎地区（H9～H15）で整備された地域である。
- ・以前は土地改良区を中心に資源の保全管理を行っていたが、農業者の高齢化に伴い、次第に維持管理が困難になってきている。また、遊休農地も発生し、地域環境の保全が課題であった。
- ・そこで、地域環境の保全、施設の維持管理、地域のコミュニケーションをテーマに、平成 21 年度から地域全体で本事業に取り組んでいる。

4 主な活動内容（平成 22 年度）

準備点検	実践活動
<ul style="list-style-type: none"> ・施設の点検，機能診断（5/9 ほか）① ・遊休農地の把握（6/27） 	<ul style="list-style-type: none"> ・パイプライン初期補修（4/3 ほか） ・子供会による稲作体験（5/2 ほか） ・草刈り（6/13 ほか）② ・遊休農地発生防止のための保全管理（6/13 ほか）③ ・子供会による農業施設等の清掃（12/23） ・農道の砂利補充（1/23）
計画・啓発	
<ul style="list-style-type: none"> ・作業スケジュール作成（5/16） ・地域住民との交流活動（11/21）④ 	



①点検・機能診断



②水路の草刈り



③遊休農地への植栽



④地域の交流活動

5 取り組みの効果及び今後の展望

- ・地区内の農業用施設については，点検結果を基に，活動計画を立てて保全管理を行うことにより，機能の維持管理が図られています。
- ・地域の遊休農地については，地域住民が景観形成活動を行い，活動を通して地域住民のコミュニケーションが図られるようになりました。また，地区の子供会と連携し，伝統農法による稲作体験などを通して，農村環境の大切さを伝えています。
- ・今後も地域が一丸となって農業施設の維持管理と農村環境の保全向上に取り組み，子供達にもその重要性を伝えていきます。

9つの集落が連携を取りながら、豊かな農村環境保全に取り組む

やわらせいぶ
谷原西部活動組織（つくばみらい市）

1 地域の資源

農地	開水路	パイプライン	ため池	農道
32.4 ha	6.3 km	7.8km	—	8.4 km

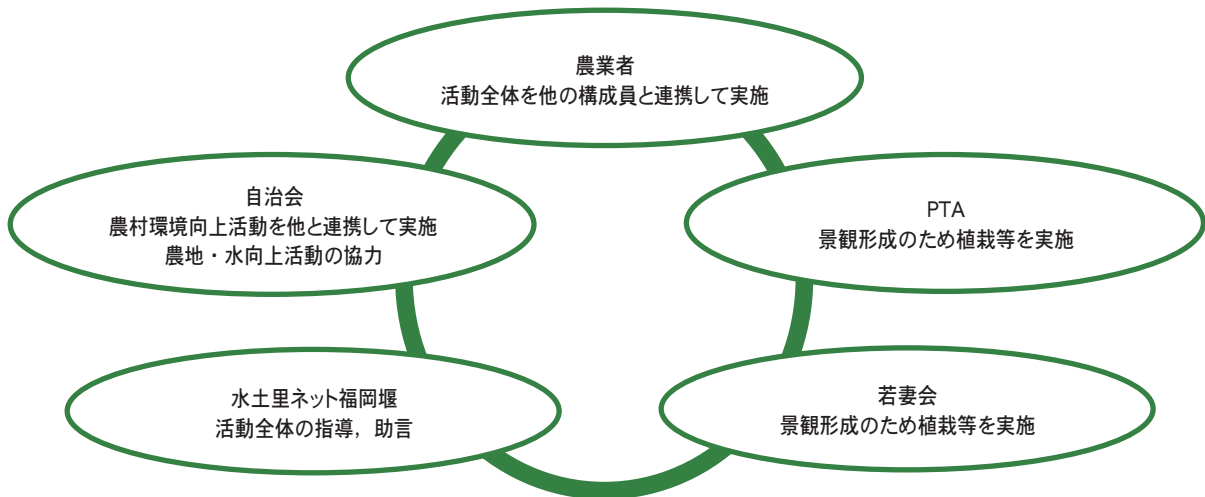


施設への植栽



小学校との連携による生き物調査

2 活動組織の構成員



3 地域の様子と取り組みへのきっかけ

- ・本地域は茨城県南西部のつくばみらい市に位置し、県営経営体育成基盤整備事業（H12～H20）によって整備された水田地帯である。
- ・本地区は以前からも、農業者と非農業者が連携し、草刈り等により地域環境の保全を含め施設の管理が行われていたが、基盤整備事業により整備された地域資源と農村環境を今後とも良好な状況で守っていくため、平成19年度から本対策に取り組むことにした。
- ・本地区の農地は9集落に跨っているため、集落相互の理解と協力が不可欠であり、行政協力員をはじめとした集落役員の尽力により本対策に取り組んでいる。

4 主な活動内容（平成 22 年度）

準備点検	計画・啓発	実践活動
<ul style="list-style-type: none"> ・施設の点検（4/17） ・異常気象後の見回り（11/3） ・遊休農地の把握（1/21） 	<ul style="list-style-type: none"> ・計画策定（4/17） ・生き物調査説明会（7/3） 	<ul style="list-style-type: none"> ・草刈り（5/30, 11/28）② ・水質モニタリング（7/3）③ ・生き物調査（7/8） ・EM 団子作り（8/10）④ ・植栽（11/7, 11/14）① ・農道砂利補修, 水路泥上げ（2/12）



①施設への植栽



②農道・水路等の草刈り



③水質モニタリング



④EM 団子作り

5 取り組みの効果及び今後の展望

- ・東京に近いので、農業以外の仕事を行う人が増え、地域のコミュニティーが崩れてきていましたが、本対策に取り組んだことにより、共同作業する回数が増え、地域の連携を深めることが出来ました。
- ・定期的な水質モニタリングとEM 団子を排水路に投入する水質浄化活動により、本対策を行う前に比べて生き物の種類が増えてきました。
- ・本対策により、小学校と連携した生き物調査を毎年行ってきたことで、農家以外の家庭でも排水路の水質に関心を持つようになり、生活雑排水を排水路に流さない家庭が増えてきています。
- ・今後も、農業者だけでなく、小学校などとの連携を含め、地域全体で農業用施設と農村環境の保全管理に取り組み、地域の活性化を図っていきたくと考えています。

地域が一体となって農村の資源を守り、 豊かな農村環境づくりに取り組む

まちだ
町田自然を守る会（稲敷市）

1 地域の資源

農地	開水路	パイプライン	ため池	農道
71.0 ha	8.6 km	7.8km	—	11.6 km

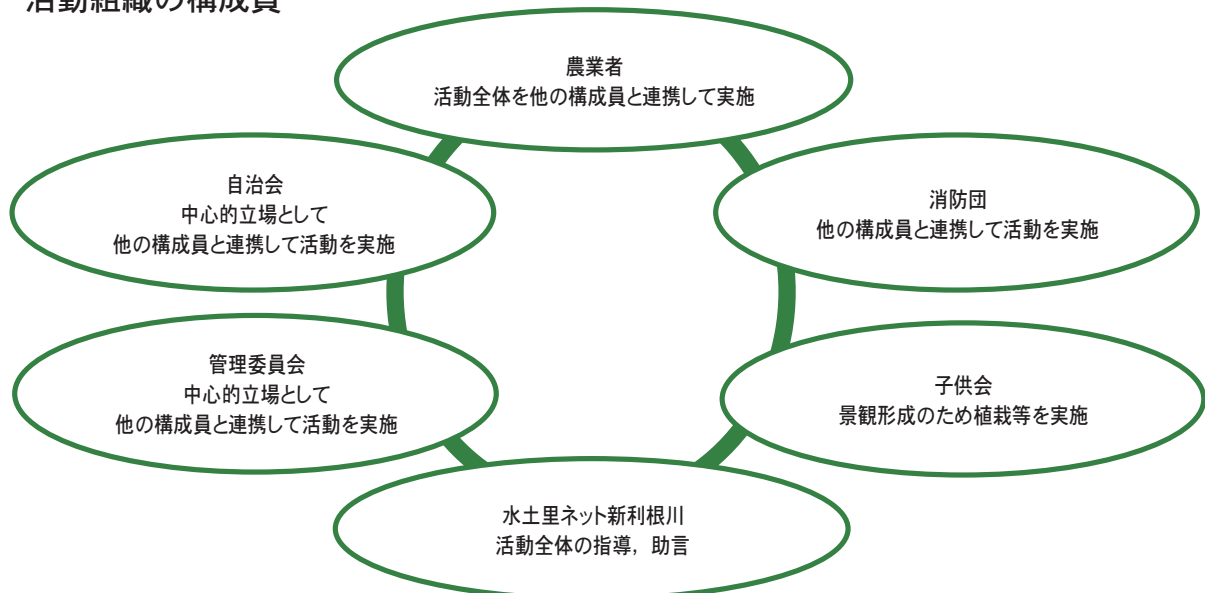


施設への植栽



水路の生き物調査

2 活動組織の構成員



3 地域の様子と取り組みへのきっかけ

- ・ 本地域は茨城県南部の稲敷市に位置し、昭和 38 年に団体営ほ場整備事業により整備され、昭和 62 年には県営事業にて用水がパイプライン化された水田地帯である。
- ・ 本対策が行われる以前から、農業者と管理委員会によって農地の保全や農業用施設の維持管理が行われていたが、高齢化等により近い将来の維持管理が危惧されていた。
- ・ このため、既に行われていたパイプラインの補修等の施設管理を更に発展させるとともに、地域環境の保全を目的として自治会が中心となり平成 19 年度から本対策に取り組んでいる。

4 主な活動内容（平成 22 年度）

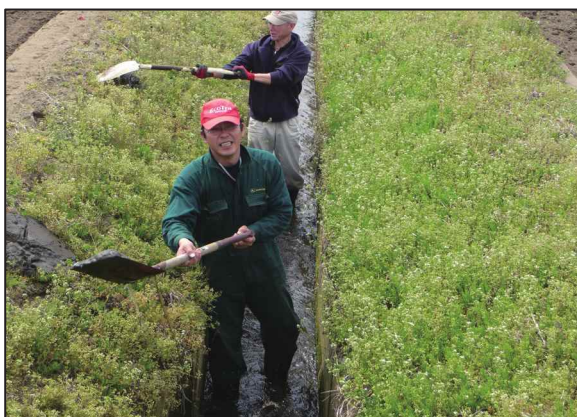
準備点検	計画・啓発	実践活動
<ul style="list-style-type: none"> ・施設の点検，遊休農地の把握（4/11） ・異常気象後の見回り（11/7） 	<ul style="list-style-type: none"> ・計画策定（4/3） ・啓発活動（5/16） 	<ul style="list-style-type: none"> ・水路泥上げ（4/11）③，草刈り（6/6，10/3）④ ・農道側溝泥上げ（11/14） ・施設補修（4/11，2/14） ・生き物調査（6/20），植栽苗作り（10/17）② ・植栽（11/7）①



①施設への植栽



②子供会による植栽の苗作り



③水路の泥上げ



④農道・水路の草刈り

5 取り組みの効果及び今後の展望

- ・本対策の実施により，地域住民や子供達が参加して地域のゴミ拾いや植栽活動などを実施していく中で，今まで交流がなかった幅広い年齢層での活動が行われるようになりました。
- ・また，自治会や子供会を中心に水路の生き物調査を実施し，水路に生息する生き物の生態や種類などを子供達に学んでもらう活動も本対策をきっかけに取り組むようになりました。
- ・施設設置後約 40 年が経過したパイプラインの施設補修に地域一体となって取り組む中で，施設の老朽化の現状を改めて認識し，長寿命化に対する意識が強まりました。
- ・今後も，生き物調査等を通して，子供達の環境への関心をさらに高めていきたいと考えています。

地域が一体となって農村の資源を守るとともに、次世代につながるふる里づくりに取り組む

あかす
赤須地区農村保全協議会（下妻市）

1 地域の資源

農地	開水路	パイプライン	ため池	農道
20.1 ha	4.7 km	—	—	2.3 km



施設への植栽



施設の除草清掃

2 活動組織の構成員



3 地域の様子と取り組みへのきっかけ

- ・本地区は、続日本紀に受津村と記載のある古い集落で、茨城県西部の下妻市の北西に位置し、鬼怒川に流入する一級河川北台川が地区の西側を流れており、主に梨と水稲が作付けされている。農業生産基盤は、県営ほ場整備事業関城上妻西部地区（S48～H4）で整備された地区である。
- ・農業者が以前から行っていた農地や農業用排水などの資源の保全管理は、高齢化に伴い農業者だけで行うことが難しくなっている。また、道路沿いの農地や排水路へのゴミの不法投棄が増加し、地域の大きな問題となってきた。
- ・地域の大切な資源である農地や農村の豊かな自然環境を、良好な状態で子や孫世代に受け継いでもらうために、農業者だけでなく自治会などの関係団体が幅広く参画して活動組織を立ち上げ、地域全体で共同活動に取り組むことになった。

4 主な活動内容（平成 22 年度）

準備点検	計画・啓発	実践活動
・施設の点検・機能診断 (4月・12月)	・共同作業計画 ・年度活動計画の策定 (4月) ①	・景観形成のための水路法面除草清掃 (4～10月) ② ・地区内道路小枝払い清掃(5月) ③ ・農道、水路等の草刈り(7月) ④



①活動計画の策定



②景観形成のための水路法面除草



③農道の小枝払い



④農道・水路等の草刈り

5 取り組みの効果及び今後の展望

- ・共同作業計画を策定し、農地や農業用施設の点検及び機能診断を行うことによって、資源の適切な保全管理が出来るようになりました。
- ・農業者だけでなく、地域住民や関係団体が一緒に活動を続けていくうちに、住民同士の連帯感が強まり、地域の農村環境を自分たちで保全していくという意識が高まってきました。
- ・道路沿いの排水路法面に紫陽花を500mに渡り植栽したことで、周辺都市部からやって来る人たちの目を楽しませ、草の繁茂を抑えるなど、美しい農村の景観を形成していく効果は表れています。
- ・今後も、地域がひとつになって、農村環境への取り組みを行い、都市と農村の交流を図っていくとともに、環境にやさしい農業に向けた地域での取り組みを続けていきたいと考えております。

地域が一丸となって生態系保全や環境美化活動に取り組み、 農村環境向上と世代間交流を促進

ながすせいぶ
長須西部地域資源保全協議会（坂東市）

1 地域の資源

農地	開水路	パイプライン	ため池	農道
48.0 ha	8.0 km	12.0km	—	8.0 km

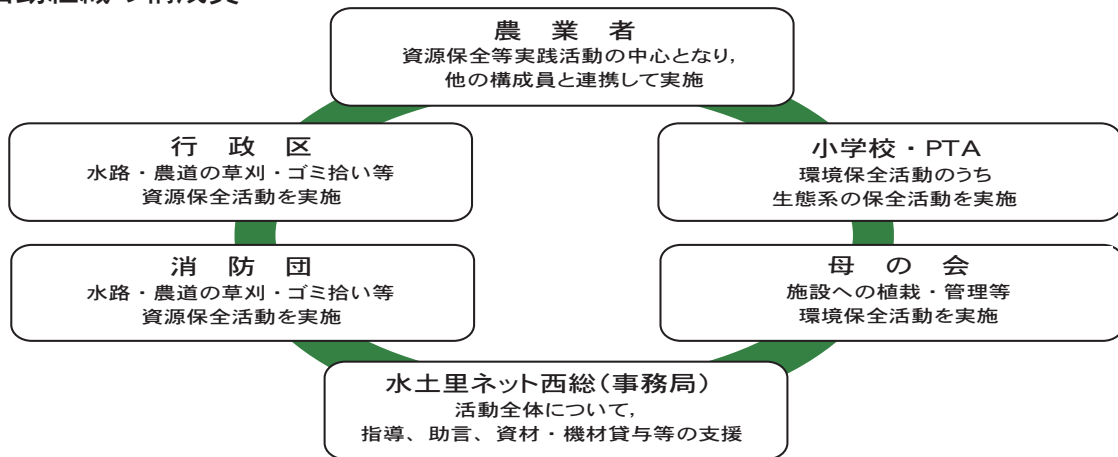


花壇の植栽後に記念撮影



生き物調査前の説明風景

2 活動組織の構成員



3 地域の様子と取り組みへのきっかけ

- ・本地域は、茨城県南西部の坂東市長須地区に位置する利根川左岸の平坦な田園地帯で、水稲のほか首都近郊型の生鮮野菜の作付けも盛んに行われている地域である。
- ・農業生産基盤については、県営ほ場整備事業（S 46～S 57）で整備し、畑かん整備を含めた用排水路や農道が完備されましたが、設置後 40 年近くが経過し、施設の老朽化による機能低下が見られるようになった。また、開水路や農道法面の草刈り等の管理は以前から農業者が行ってききましたが、高齢化や後継者不足により、農業者だけで農業施設の維持管理をすることが困難な状況になりつつある。
- ・そこで、地域の資源である優良農地と自然豊かな農村環境を守り後世に引き継ぐため、平成 19 年度に活動組織を立ち上げ、地域を挙げての共同活動に取り組むことになった。

4 主な活動内容（平成 22 年度）

準備点検	計画・啓発	実践活動
<ul style="list-style-type: none"> 施設の点検 (4/2, 10/26) 遊休農地発生状況の把握 (10/26) ① 	<ul style="list-style-type: none"> 計画策定 (4/30) 広報誌の発行による啓発 (3 月発行) 活動案内チラシの配布 (5 月, 7 月) 	<ul style="list-style-type: none"> 農地, 開水路, 農道の草刈り, ゴミ拾い活動 (5/30, 8/8, 2/6) ② 花壇への植栽 (5/15, 11/27) ③ 生き物調査 (7/6) ④ パイプライン機場の補修 (5/6, 5/10) 水路の泥上げ (1/12 ほか)



①遊休農地発生状況の把握



②水路の草刈り



③県道と農道の交差点に設置した花壇への植栽



④生き物調査の実施

5 取り組みの効果及び今後の展望

- ・本対策を通じて、地域住民と農業者の交流がより促進され、農業施設や地域環境への関心が高くなりました。
- ・雑草が繁茂し、見通しの悪かった交差点付近に花壇を設置した結果、交通事故が減るとともに、ゴミ捨てがなくなり、花壇が農業者や地域住民の憩いの場になるなど相乗効果も表れています。
- ・小学生が行っている生き物調査では、PTAをはじめ区長会や消防団、農業者等と一緒に活動することで世代間交流が活発になるとともに、子供達が農業施設に強い関心を示すなど、本対策の効果が随所に見られるようになり、地域としてのまとまりが強くなりました。
- ・今後も、地域の交流をより深め、農業施設の保全と自然豊かな農村環境を守る本対策の活動を継続していきたいと考えています。

